

施設

芸術の感動を伝える
素晴らしいホールと、
のびのびとスポーツを楽しむ
広大な公園が自慢。



感動が広がる カメラリアホール

「音響がよくて歌いやすい」「雰囲気がいい」と出演者にも聴衆にも好評なカメラリアホール。地上3階、地下1階建ての館内には、最大610人を収容できるホールをはじめ、研修室や和室、会議室、視聴覚室、調理室などの貸し施設があります。

中でも鮮やかな木目がひととき目を引くホールでは、壁や天井に残響時間を変化させる特殊な装置や音響効果を高める反射板などが設置され、映画や音楽コンサート、演劇と、さまざまな催しに最適な音響効果を発揮。会場ではこれまでに内外の有名アーティストが訪れたほか、毎年秋には市民文化祭を開催。また地元で活動を続ける「津屋崎少年少女合唱団」や「福津民話劇団」「勝浦人形浄瑠璃保存会」の発表の場となっています。



平成5年8月に開館した、「カメラリアホール」

壮大な運動公園



親子連れの姿も見られる、福津市総合運動公園「なまずの郷」

147,000㎡の広大な敷地に、野球場や多目的グラウンド、テニスコート、アーチェリー場、弓道場、ゲートボール場、子ども広場、和風庭園などを整備した、福津市総合運動公園「なまずの郷」。ユニークな名前の由来は、昔からこの辺りの河川やため池には大ナマズが生息し、また近くの大森宮では、ナマズを神の使いとして祭っていることから付けられました。春の桜をはじめ、四季折々の花や緑が楽しめるなまずの郷は、子どもたちの格好の遊び場。和風庭園内の池には、今もナマズたちが悠々と泳いでいます。



交通

誰もが使いやすくなった
新しい福津の玄関口・JR福間駅。
人と地域を結ぶ交通交流が
ここからさらに広がります。



新しいシンボルが完成

平成22年2月27日、JR福間駅の新駅舎が開業しました。駅舎は橋上駅で、今後は駅前広場整備や東西両方向を結ぶ自由通路の完成を目指します。これにより従来は東側からは駅に入らなかった不便を解消。自由通路東西それぞれの出入口愛称は、市の広報誌で募集し、東口は「さいごう口」、西口は「みやじ口」に決定。住民の思いと期待を込めた、新しい福津の玄関口が誕生しています。

住民の声を反映してつくられた、JR福間駅の新駅舎。モダンな駅の外観は、地層をイメージしたもの

駅を生かすまちづくり

JR鹿兒島本線が走り、福間駅、東福間駅二つの駅がある福津市。新駅舎が開業したばかりの福間駅は、福津市でも進んでいる誰もが使いやすいユニバーサルデザインをつくりなっています。駅構内にはエレベーターやエスカレーターが設置されたほか、多目的トイレや手すりも充実しました。

さらに今後、福間駅内に駅の特性を生かした市の施設を開設します。その一つは乳幼児や子育て世代、中高生のためのフリースペースなどを備えた「エンゼルスポット」です。親子で気軽に立ち寄れる遊びや交流の場として開放するほか、専門のスタッフが育児に関するさまざまな相談に応じます。もう一つは、ギャラリ機能併設した「行政・観光情報ステーション」です。ここでは、一部申請書の受領・取り次ぎ業務や住基カードを利用した諸証明の発行、観光案内サービス、福津ブランドの情報発信や展示などを行っていきます。

また、福間駅の東では土地区画整理事業にも取り組み、住宅地の開発や道路整備などを行っています。今後、道路交通面も充実していくこととなり、駅を中心とした快適なまちづくりを進めています。

Column ●ふくつミニバス



平成20年4月1日から、市内四つのルートを守る「ふくつミニバス」。高齢者や自家用車を運転しない人などの交通手段として、また公共交通空白地域の解消のため、住民の要望を取り入れて福津市が始めました。現在、10人乗りのワンボックス3台と23人乗りのマイクロバス1台が運行。料金は中学生以上200円、小学生100円。休日と年

末年始は運休します。ミニバスを乗り継ぐときは乗り継ぎ割引券を発行し、また70歳以上の市民には「ミニバス割引証」を交付。携帯電話から時刻表を検索できるようにするなど利用者の利便性も図っています。

